

# 総論



# 第1章 後期基本計画の策定について

## 1 計画策定の趣旨

総合計画は将来のまちの姿を明らかにし、それを実現するために市民と行政が協働して取り組むまちづくりの指針であり、福山市にかかわる様々な市民や団体が共有し、ともにめざすべきビジョンとなるものです。

本市は、2006年(平成18年)に、市制施行100周年に向けた新たなまちづくりの指針として第四次福山市総合計画基本構想を策定しました。まちづくりの基本理念と将来都市像や、これを実現するための基本目標を次のとおり定めています。

基本理念	人間環境都市
将来都市像	にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～
基本目標	○だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち(安心・安全・環境) ○子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち(保健・福祉・医療) ○多様に学び、文化をはぐくむまち(教育・文化) ○産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち(活力・交流) ○市民とともにつくる自立したまち(協働・行革)

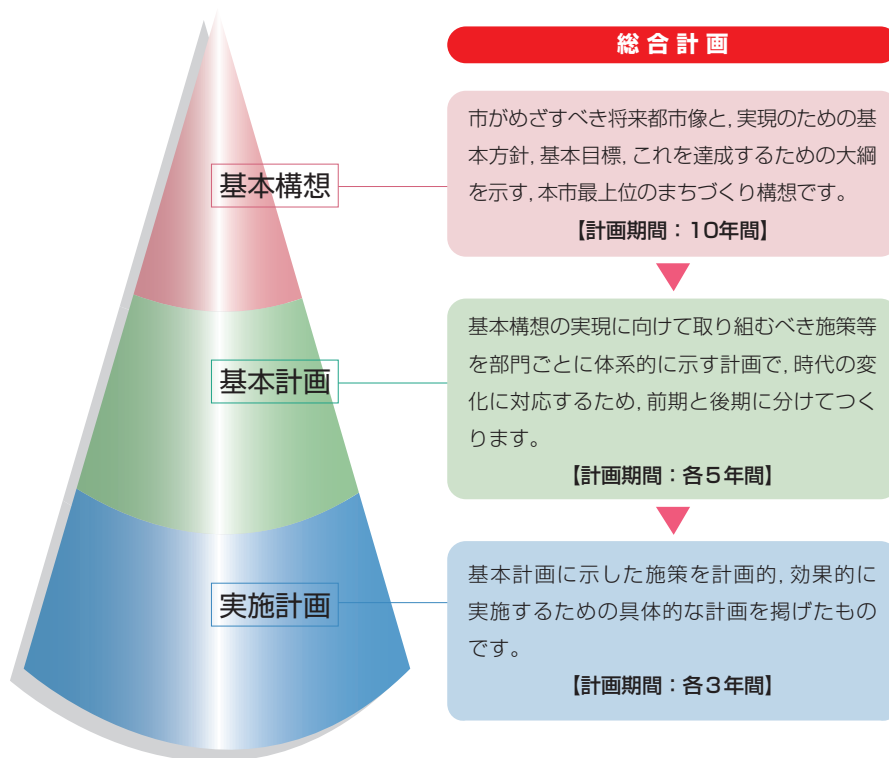
- 前期基本計画では、分野ごとに目標を設定し、施策を展開してきました。まなびの館ローズコムや福山市駅南地下送迎場の供用開始、東桜町地区市街地再開発事業の完成や福山市立大学の開学など、50万都市としての都市基盤が整いつつあります。また、市民の安心・安全に関する施策や教育環境の整備、温暖化対策事業や子育て支援に対する施策などについても、市民の皆様との協働により進めてきました。前期基本計画に掲げる事業はおおむね順調に進捗しています。
- しかし、前期基本計画の期間には、世界的な金融危機や東日本大震災が発生し、我が国の社会経済に大きな影響がもたらされました。本市を取り巻く環境も大きく変化しています。人口減少社会へと差し掛かろうとしている中、市民の生活は、転換期にあるものといえます。
- 後期基本計画は、こうした社会情勢の変化やこれまでの前期基本計画に基づく施策の成果と課題を踏まえる中で、今後のまちづくりの課題を見極めながら、基本構想で定めたまちづくりの基本方針・基本目標・施策大綱(基本施策)を基本に、施策体系と施策展開の方向性を再構築しています。
- 本市が、夢と希望にあふれる、いつまでも住み続けたいと思える持続可能なまちとなるよう、市民との協働により後期基本計画の推進に着実に取り組みます。将来都市像「にぎ

わいしあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～の実現をめざして未来志向のまちづくりを進めていきます。

## 2 計画の構成と期間

- 総合計画は、部門別計画の上位に位置します。後期基本計画は、前期基本計画を発展的に引き継ぐものであり、第四次福山市総合計画の「基本構想」の実現に向けて必要な取組を体系的に示す「基本計画」です。
- 本計画の期間は、2012年度(平成24年度)から2016年度(平成28年度)までの5年間です。

### ■計画の構成



### ■計画の期間



※毎年度見直しを行い、向こう3年間の実施計画を立てます。

## 第2章 後期基本計画の視点

### 1 これからの社会展望

#### 1 グローバル社会

2010年(平成22年)に我が国のGDP\*が中国に抜かれるなど、2000年代に入っ  
てからの新興国の台頭は著しく、経済のグローバル化はますます進展しており、国内  
の企業活動にも大きな影響を与えています。こうした中、金融危機\*以降の世界的な不  
況はその後も続き、日本経済は低成長を続けています。

グローバル化が進む世界経済の流れの中で、日本経済が存在感を示すためには、国  
際競争力を持った産業の育成が急務となっており、雇用情勢の安定化や国際感覚豊か  
な人材育成などが求められています。

#### 2 少子高齢化の進行と人口減少社会

国勢調査の結果によると、日本の総人口は、2005年(平成17年)には約1億2,777  
万人、2010年(平成22年)には約1億2,806万人と、ほぼ横ばいで推移してしま  
すが、今後は人口が減少していくものと予測されています。高齢者の人口比率は、2010  
年(平成22年)には23.0% (世界最高水準)となり、今後も上昇が予測され、一方で、  
15歳以下の年少人口は13.2%で、今後も低下傾向が続くと予測されています。

少子高齢化、人口減少が進む社会の中で、社会経済の発展、地域の活力維持が大きな  
課題となっています。

#### 3 環境に配慮した社会

私たちに利便性や物質的な豊かさをもたらした社会経済活動は、資源やエネルギー  
を大量に消費し、環境に大きな負荷をかけてきました。この環境負荷は、従来持って  
いる自然の復元力を超え、身近な環境問題を引き起こすだけでなく地球環境にも重大な  
影響を及ぼしています。

こうした中、循環型社会\*づくりに向け、ごみのリデュース(発生抑制)、リユース(再使  
用)、リサイクル(再生利用)など環境負荷の少ないライフスタイルや企業行動が求めら  
れるとともに、地球温暖化防止に向けて、公共交通の利用促進や環境負荷の少ない物流

\*GDP: Gross Domestic Productの略で、国内総生産と訳される。国内で1年間に新しく生み出された財やサービスの額の総和のこと。

\*金融危機: 2007年(平成19年)米国の住宅バブル崩壊に端を発し、2008年(平成20年)米国の大手証券リーマン・ブラザーズの経営破綻をきっかけに世界同時株安などを引き起こした世界的な金融危機のこと。

\*循環型社会: 廃棄物等の発生を抑制するとともに、再使用や再生利用及び適正な処分を行うことにより、天然資源の消費を少なくし、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

体系の構築など、低炭素型の社会\*づくりに向けた取組の重要性が高まっています。

#### 4 安心・安全が確保される社会

局地的な集中豪雨、大規模な地震などの自然災害や、原発事故が発生し、大規模災害などへの不安が高まっており、国民の生命や財産を守る体制の強化が必要とされています。

様々な危機から地域や個人を守るためには、社会基盤の整備とともに、一人ひとりの日ごろからの備えや地域での助け合い、情報の共有化を進めることが重要です。行政による取組と併せて地域住民や企業、団体などが協働して地域の防災力や防犯力を高めていくことがこれまで以上に求められています。

#### 5 高度情報化社会

ICT\*（情報通信技術）の飛躍的な発達と情報通信機器の普及・多様化は、社会活動・経済活動に大きな影響をもたらしています。情報のデジタル化、ブロードバンド\*環境の整備、インターネットの普及などにより、いつでも、どこでも様々な情報の受発信、インターネット上のコミュニティ\*への参加、商取引などがより活性化するとともに、高度な情報処理技術の活用により学術研究や企業の研究開発の可能性も広がっています。

今後は、防災や防犯、医療・介護など様々な分野でICTをより積極的に活用すると同時に、ICTを悪用した犯罪やトラブルへの対応力を高め、安心で利便性の高い社会づくりにつなげていくことが求められます。

#### 6 地方分権型社会と協働のまちづくり

地域の自主性・自立性を高めるための改革が進められる中、自治体に対して多くの事務や権限の移譲が進められており、自治体の政策形成能力が求められています。

こうした中、自治体を取り巻く行財政環境は厳しい状況が続いており、各自治体は社会情勢の変化に的確に対応する中で、財政規律を踏まえながら住民満足度の高い持続可能なまちづくりを進めていくことが必要となっています。

地域が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組んでいくためには、住民や自治会(町内会)、ボランティア・NPO\*、企業などと行政との協働により、それぞれが責

\*低炭素型の社会：温室効果ガスの排出を抑制する社会のこと。「世界全体の温室効果ガス排出量を現状に比して2050年(平成62年)までに半減」という長期目標を見据え、日本は、2008年(平成20年)に「低炭素社会づくり行動計画」を策定した。そこでは長期目標として2050年(平成62年)までに60～80%の排出削減を掲げ、技術の導入や普及、排出量取引やグリーン税制、低炭素型の都市づくりといった手段が述べられている。

\*ICT（情報通信技術）：Information and Communication Technologyの略で、コンピュータやデータ通信に関する技術のこと。従来のITと同義であるが、コミュニケーションを加えたことで、情報・知識の共有性を念頭に置く表現となっている。

\*ブロードバンド：光通信を始めとする、高速・大容量の情報送受信を実現する通信ネットワークのこと。

\*コミュニティ：人々が、共同して取り組む活動又はその組織のこと。地縁を基礎とする総合的な共同体である地域コミュニティのほか、テーマや趣味などを共有する様々なタイプのコミュニティがある。

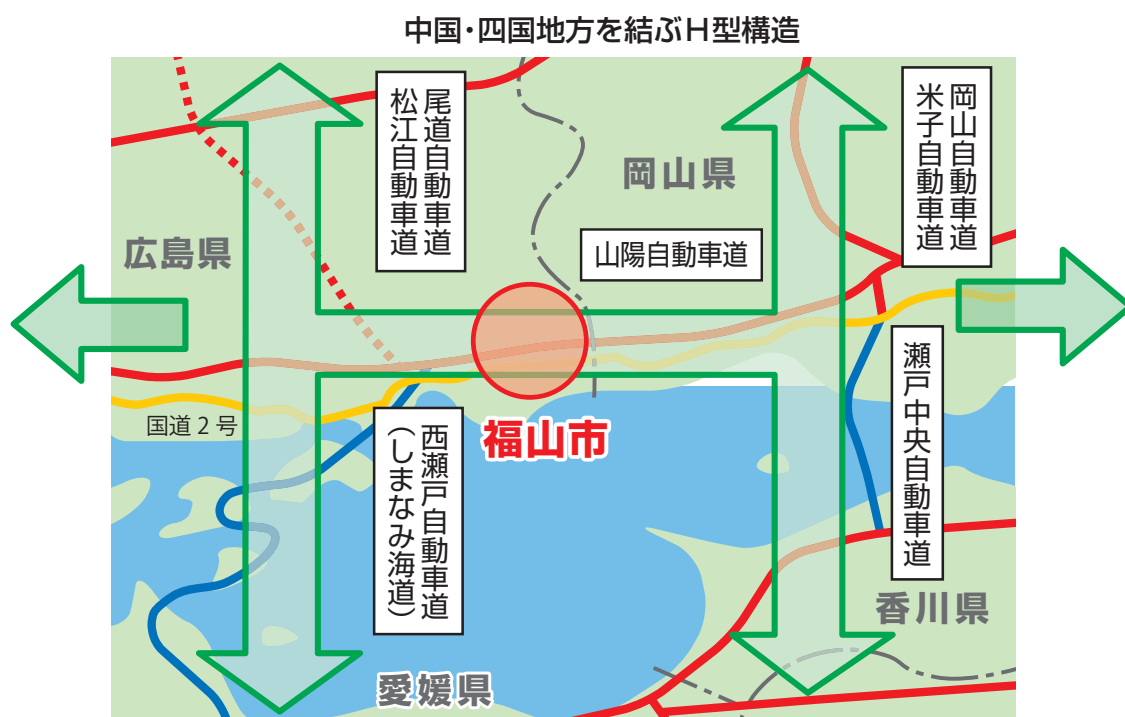
\*NPO：Non Profit Organizationの略で、民間非営利団体(組織)と訳される。医療・福祉、環境、災害復興、地域振興など様々な分野の市民運動やボランティア活動などをする団体(組織)のこと。

任と役割を分担し、連携を深めながらまちづくりを進めていくことが重要となっています。また、住民の生活圏の広域化に伴い、圏域の一体的な発展に向け、近隣自治体と連携し、広域的な課題に取り組んでいくことが必要です。

## 2 福山市の現状

### 1 広域的な位置付け

- ◆本市は、関西と九州を結ぶ国土軸の中央に位置し、中国・四国地方を結ぶH型構造の中心にあり、港や陸上交通、空港などの交通条件に恵まれています。今後もこの立地の優位性を活かし、人やモノの流れを活性化していくことが期待されます。



- ◆本市の人口は、増加傾向で推移しており47万人(2011年(平成23年)住民基本台帳)を超えています。しかし、備後圏域全体の人口は減り続けており、地域活力の低下が心配されます。
- ◆福山港は、中国地方を代表する国際港として成長してきました。2011年(平成23年)4月からは国際コンテナターミナル第2バースの供用が開始されました。5月には国内10か所の国際バルク戦略港湾\*の1つに選定され、備後圏域の産業基盤の強化につながるものと期待されます。

\*国際バルク戦略港湾:バルクとはばら積み品のこと。資源、エネルギー、食糧等の安定的かつ安価な輸送を実現するため、大型船舶による一括大量輸送を可能とする港湾を拠点化するもの。2011年(平成23年)、穀物、鉄鉱石、石炭の3分野で計10港が選定され、福山港は「鉄鉱石」の拠点として選定された。

- ◆本市には、年間約670万人以上の観光客が訪れており、今後も増加が予測されます。しかし、そのうち県外客は3割程度で、遠方からの観光客数は伸び悩んでいます。

## 2 市民生活をめぐる動向

- ◆本市は、65歳以上人口が22%という超高齢社会<sup>\*</sup>に突入し、世帯規模の縮小化も進んでいます。市内には人口が増えている地域がある一方、人口や世帯数が減少している地域もあり、地域社会の活力低下が心配されます。
- ◆本市には、海や川、山の豊かな自然、歴史ある町並み、オンリーワン・ナンバーワン企業の集積など多様な資源があります。都市としての利便性が高まってきた一方、中心市街地の空洞化や山間部・島しょ部の過疎化、市内の移動を支える公共交通の維持などの課題があります。
- ◆高齢者の増加に伴い、医療・介護サービスの利用が増加しています。市民がいつまでも元気に暮らせるよう支援する事業や活動の展開が求められています。
- ◆子育てに関しては、保育所の待機児童ゼロの実現や、地域子育て支援センターの充実など、子どもを生み育てるための環境が整っています。
- ◆本市には、1小学校区に1か所ずつ公民館が整備されています。また、人権平和資料館、人権交流センター、男女共同参画センター、市民参画センターなど、市民によるまちづくりのための拠点や、平和や人権について考える環境が整っています。
- ◆本市は、幼稚園から大学までの教育機関が充実し、2011年(平成23年)4月には、福山市立大学が開学しました。また、美術館、博物館、動物園などがあり、教育環境や文化施設に恵まれています。この教育・文化環境を、本市の魅力としてPRしていく取組が必要です。

## 3 産業をめぐる動向

- ◆2008年(平成20年)に始まった世界的な金融危機以降の景気悪化は、本市の産業や雇用状況にも影響し、依然として厳しさが続いています。アジアの需要拡大を市産業の成長に活かしていくなど、変化に強い産業の形成が必要です。
- ◆本市は、全国でも屈指の規模の鉄鋼業を始め、日本のものづくりを支える工業都市として発展し、県の工業製品出荷額の約2割を担っています。大手メーカーから伝統的な地場産業まで多種多様な製造業が集積する特性を、本市の優位性として更に伸ばしていくことが重要です。

<sup>\*</sup>超高齢社会:一般的に、総人口における65歳以上の割合が21%以上の社会のこと。(7%以上が「高齢化社会」、14%以上が「高齢社会」)

- ◆本市の商業は、大型店の進出とともに商品販売額を伸ばしていますが、中小事業所・個人商店の経営は厳しく、商店街の活性化も大きな課題です。
- ◆本市は、工業都市としての性格と、中国・四国地方の拠点都市にふさわしい都市機能を備えた文化的な都市としての性格を備えています。この性格を更に伸ばし、人、モノ、文化、情報の交流を地域産業の発展へと積極的につなげていくことが必要です。

## 4 市民等の意識

- ◆2010年度(平成22年度)に実施した市民アンケート調査<sup>\*</sup>結果によると、約75%が「これからも福山市に住み続けたい」という気持ちがあり、住みやすいと感じている状況が分かります。
- ◆市の取組に対する評価では、「ごみ処理」「保健・医療の充実」「広報や情報提供」は良くなったと評価されています。今後特に重要な取組は「雇用」「教育」「中心市街地活性化」「市の知名度アップ」となっています。
- ◆2010年度(平成22年度)の市外の人を対象として初めて実施したインターネット調査<sup>\*</sup>(以下「インターネット調査」という。)によると、福山市に「ぜひ」または「できれば」行ってみたいと思っている人は約53%と、回答者の半分強となっています。
- ◆福山市のイメージとして、市民アンケート調査では約72%が「ばら・ばら祭」を挙げていますが、インターネット調査でこれを挙げた人は約24%で、県外では「ばら・ばら祭」より「鞆の浦」「福山城」のイメージの方が高いことが分かりました。都市が持つブランド力や都市イメージを高めるため、効果的な情報発信を行い、知名度向上につなげていくことが必要です。
- ◆2010年度(平成22年度)に実施した高校生・大学生ワークショップ<sup>\*</sup>では、「ばら」や「くわい」の活用、商店街の活性化、芦田川の美化を始め、多くの提案がなされ、将来の福山市を担う若者のまちづくりへの積極的な参加意欲が示されました。この意欲を、まちづくりにつなげていくことが必要です。

<sup>\*</sup>市民アンケート調査:福山市のめざすべき将来像やまちづくりのあり方などについて、市民の意向やニーズを把握するために、市内の20歳以上の男女3,000人を対象に実施した市民アンケートのこと。「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」の名称で、2010年(平成22年)11月に実施した。

<sup>\*</sup>インターネット調査:福山市を除く全国の20歳以上の男女1,000人を対象に、インターネットを活用して、福山市の認知度や意向、ニーズを把握するために実施したアンケートのこと。2011年(平成23年)1月に実施した。

<sup>\*</sup>高校生・大学生ワークショップ:計画にあらゆる市民の意見を反映させるため、福山市のまちづくりについて、市内の高校生・大学生が意見交換を行いながら、未来のまちづくりについて考え、意見やアイデアを提案したもの。2011年(平成23年)1月に連続3回で、高校生412名(6グループ)、大学生33名(4グループ)で実施した。

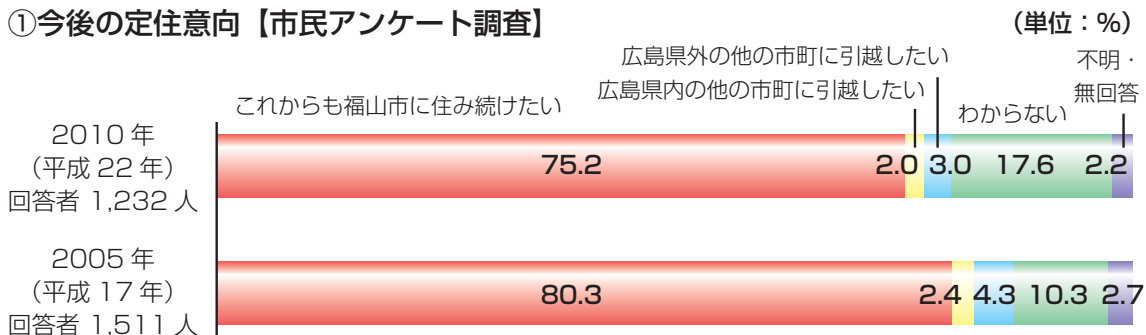
市民アンケート調査、インターネット調査、ワークショップの結果等は、市ホームページで公表しています。

URL:<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/sec/top.php?hdnZoku=110010010>

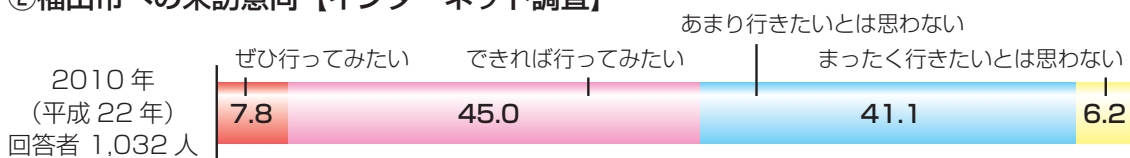


## ■第四次福山市総合計画後期基本計画策定のための基礎調査結果より

### ①今後の定住意向【市民アンケート調査】

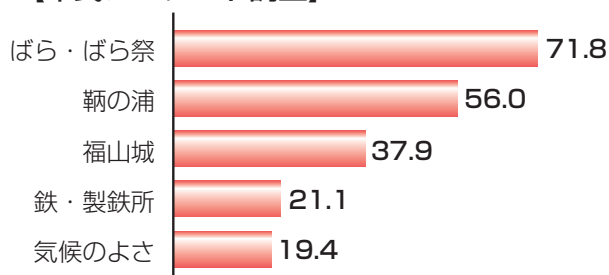


### ②福山市への来訪意向【インターネット調査】

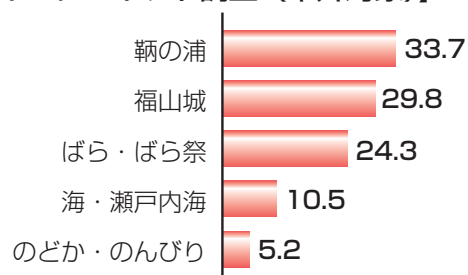


### ③「福山」のイメージ (上位5位)

#### 【市民アンケート調査】



#### 【インターネット調査 (市外対象)】



## 3 まちづくりの課題

これからの社会展望と本市の現状を踏まえると、今後の本市のまちづくりに向けての課題は、「拠点性と求心力を備えた持続可能なまちづくり」ということができます。

### ●今後のまちづくりの課題

#### 拠点性と求心力を備えた持続可能なまちづくり

本市は、広域交通網の優位性が高く、自然災害が少なく暮らしやすい環境、活力ある産業集積と定住環境に恵まれた都市として発展し、都市機能を高めています。

こうした特長や、市内各地域の特性を活かし、中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力を備えた都市機能の充実と都市アイデンティティー<sup>\*</sup>の確立を図っていくことが求められています。

そして、市民の生活と都市に更なる豊かさをもたらす、すべての市民が夢と希望に

<sup>\*</sup>都市アイデンティティー:アイデンティティーとは自分が自分であるための独自性、主体性のこと。都市アイデンティティーとは、他の都市とは異なった都市の特性、個性のこと。

あふれる「いつまでも福山市に住み続けたい」と思える持続可能で未来志向のまちづくりを推進していく必要があります。

### ◆福山市ならではの地域特性の積極的な活用

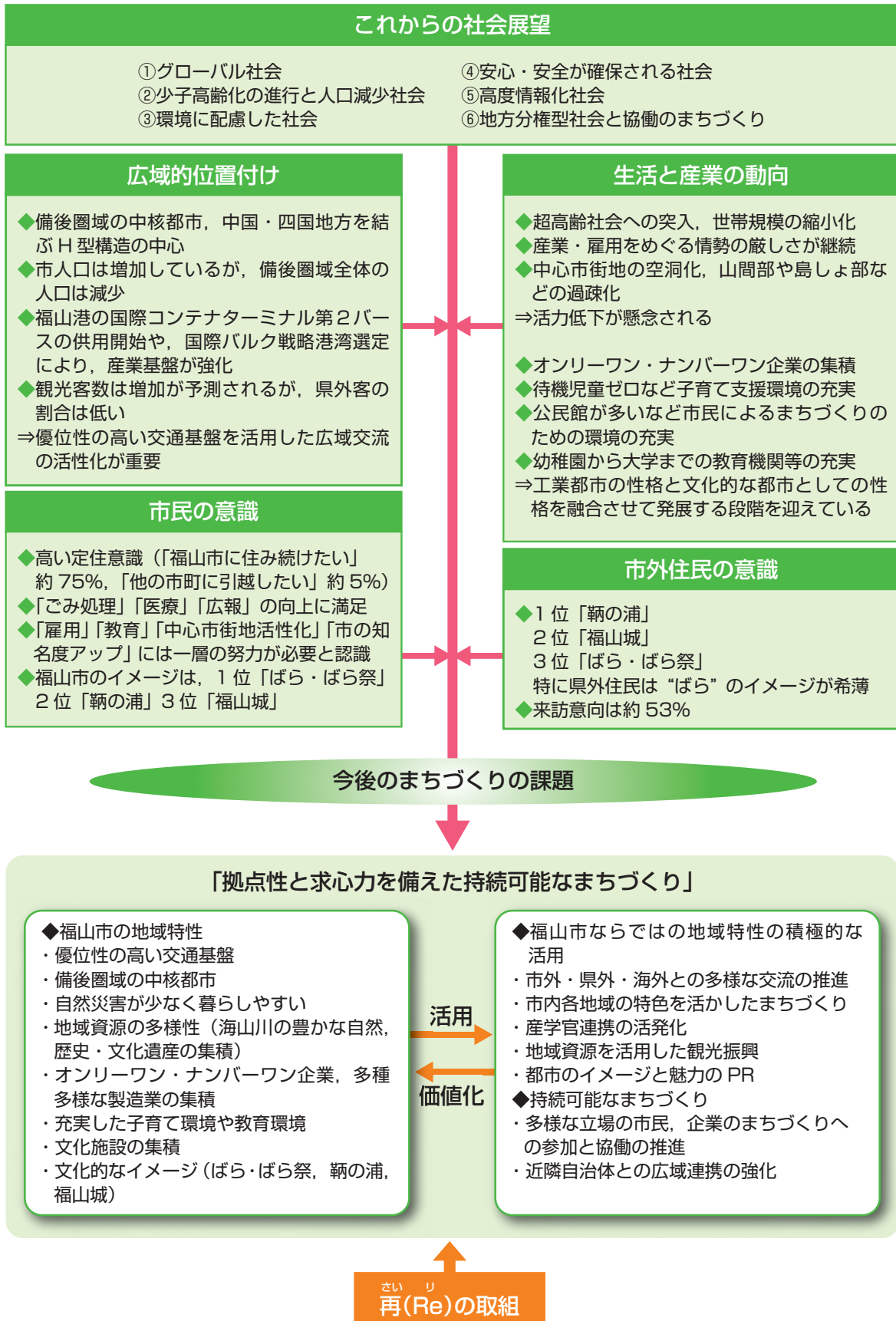
- ・港や陸上交通、空港などの広域交通網と、備後圏域における中核都市としての機能、日本のものづくりを支える工業都市としての長を、国内外との交流に更に活かしていく必要があります。
- ・市内においては、海や山といった自然が豊かな地域、歴史ある町並みが残る地域、利便性の高い都市機能が集積している地域など、地域の特色を活かして、各地域を活発化していくことが必要です。
- ・ものづくりに強い多種多様な業種の集積と大学のある環境を活かして、異業種間交流や産学官連携を進め、景気の変動などにも対応できる福山市ならではの地域産業を形成していくことが重要です。
- ・「ばら」や「鞆の浦」「福山城」に代表される、本市が持つブランド力や都市イメージを高めるため、豊かな自然や歴史・文化遺産、オンリーワン・ナンバーワン企業などの、地域資源の掘り起こしや効果的な情報発信を行い、知名度向上につなげる取組が重要です。

### ◆持続可能なまちづくり

- ・住民や自治会(町内会)、ボランティア・NPO、企業など地域で生活するすべての人々と行政が、今まで以上に連携を深めながら、福山らしさを活かした魅力あるまちづくりのために、協働によるまちづくりを一層進めていくことが重要です。
- ・備後圏域の中核都市として、近隣自治体との連携を強め、備後圏域全体が活力を持続していくことのできる仕組みを強化し、地域の一体的発展が可能となるよう、広域的な課題について自治体間で連携した取組が必要です。
- ・少子高齢化や人口減少が進む中、社会保障関係費は年々増大しており、本市の財政状況は非常に厳しい状況にあります。このまま現在の市民サービスを継続することは困難です。  
本市では、“持続可能なまちづくり”をキーワードに、市民とともに、自主・自立のまちづくりを進めていくため『再(Re)の取組<sup>さいり</sup>』を進めています。この取組を確実に進めていくことが必要です。

<sup>さいり</sup>再(Re)の取組<sup>さいり</sup>：再(Re)の取組は、本市のめざすべき姿を明らかにし、それに向けて、行政の様々な施策を原点に戻って再検討(re-consider)し、再構築(re-construct)・再始動(re-start)させていこうとする取組のこと。

(参考)



# 第3章 後期基本計画の基本方向

## 1 後期基本計画の基本指標

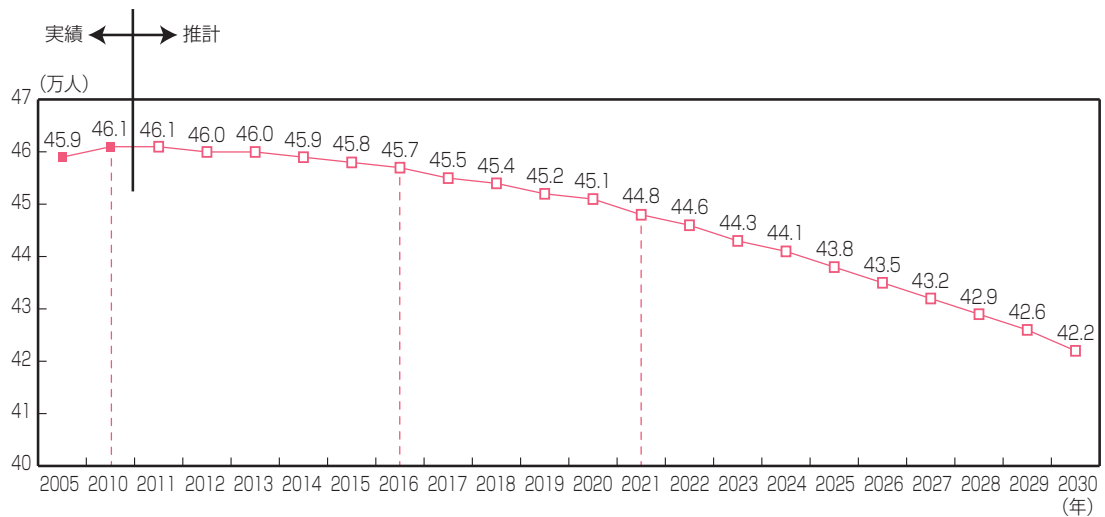
### — 基本指標とは —

基本指標は、基本計画に基づく施策を進めるに当たって、基本的な指標となるもので、人口、世帯数などについて、国勢調査結果などにに基づき推計したものです。

### (1) 将来人口

- 本市の人口は、今後、減少することが予想されます。
- 人口推計では2016年(平成28年)の人口は45.7万人ですが、今後の少子化対策や定住人口の増加を図る施策などに取り組むことにより、目標人口は46万人に設定します。

【将来人口の推計】 2010年(平成22年)の人口	46.1万人
2016年(平成28年)の将来人口	45.7万人
2021年(平成33年)の将来人口	44.8万人



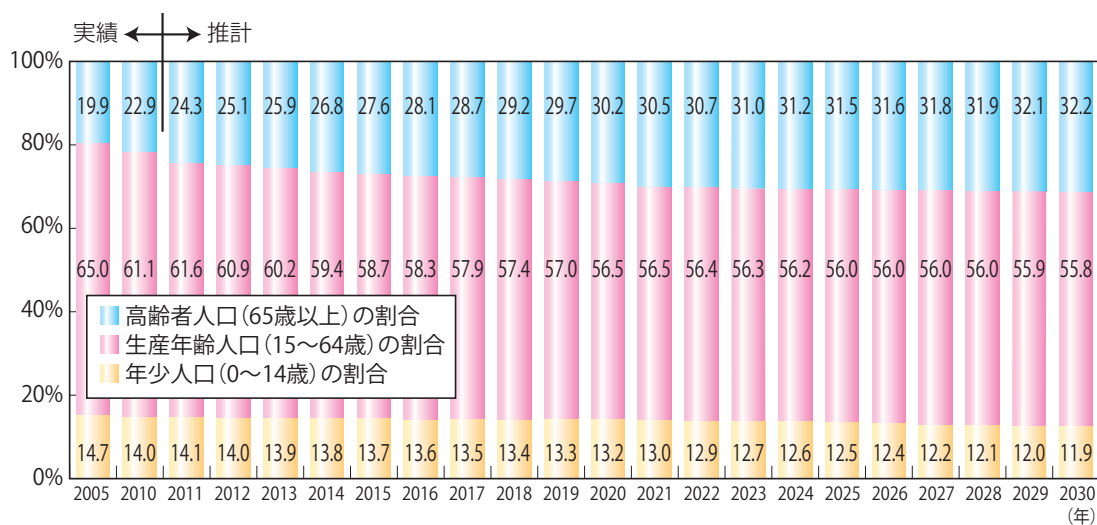
(注) 2005年(平成17年), 2010年(平成22年)は総務省「国勢調査報告」で、年齢不詳を含む。それ以外は推計値。

## (2) 年齢三区分別人口

■ 生産年齢人口と年少人口は減少し、高齢者人口は増加することが予想されます。

### 年齢三区分別人口構成比の推計

	2010年(平成22年)		2016年(平成28年)		2021年(平成33年)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
年少人口(0歳～14歳)	64,738	14.0	62,100	13.6	58,500	13.0
生産年齢人口(15歳～64歳)	281,828	61.1	266,200	58.3	253,100	56.5
高齢者人口(65歳以上)	105,858	22.9	128,500	28.1	136,700	30.5
うち後期高齢者(75歳以上)	50,446	10.9	61,600	13.5	71,700	16.0

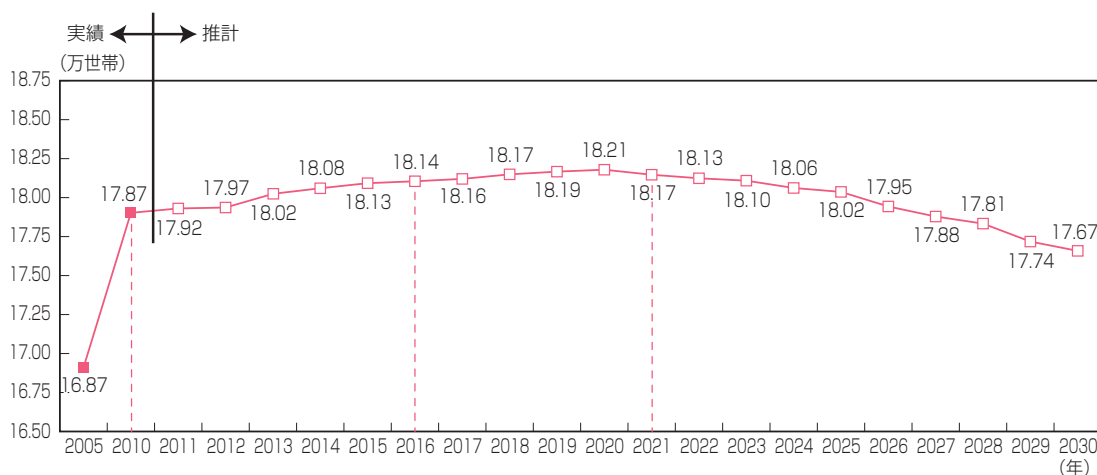


(注) 2005年(平成17年)、2010年(平成22年)は総務省「国勢調査報告」で、年齢不詳を含む総人口に対する割合。それ以外は推計値。

## (3) 世帯数

■ 世帯数は、夫婦のみ世帯や単独世帯などの増加に伴い、2020年(平成32年)の18.2万世帯をピークに、その後は緩やかに減少傾向になると予想されます。

【世帯数の推計】 2010年(平成22年)：17.9万世帯  
 2016年(平成28年)：18.1万世帯  
 2021年(平成33年)：18.2万世帯



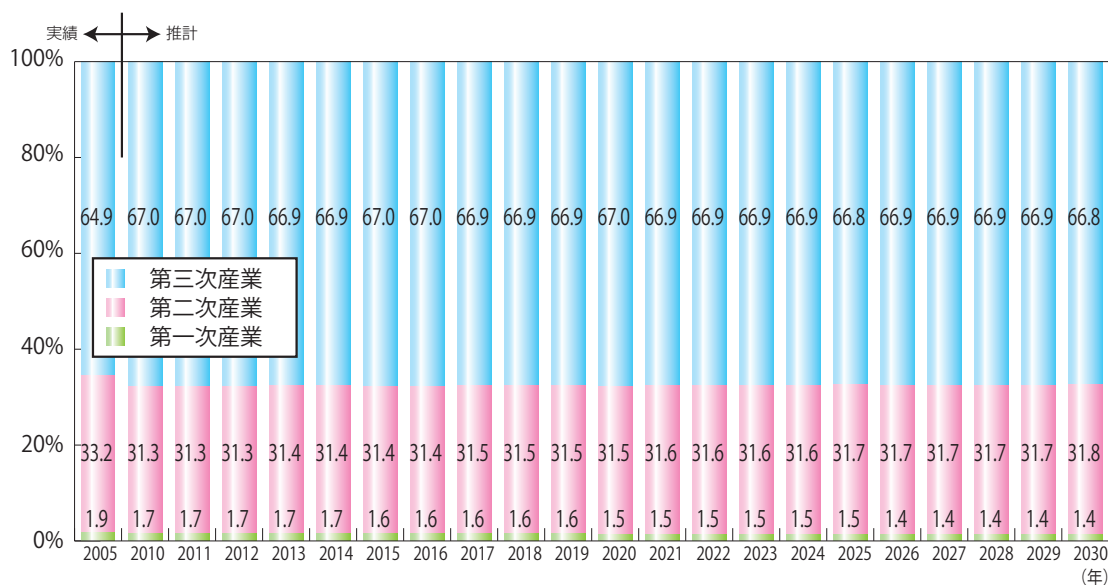
(注) 2005年(平成17年)、2010年(平成22年)は総務省「国勢調査報告」で、それ以外は推計値。

#### (4) 産業別就業人口

- 総人口の減少に伴い、就業人口の減少が予想されます。第一次産業に従事する人の割合が低下していく傾向にあります。

##### 産業別就業人口構成比の推計

	2010年(平成22年)		2016年(平成28年)		2021年(平成33年)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
第一次産業	3,700	1.7	3,500	1.6	3,100	1.5
第二次産業	68,500	31.3	67,800	31.4	66,300	31.6
第三次産業	146,500	67.0	144,700	67.0	140,300	66.9



(注) 2005年(平成17年)は総務省「国勢調査報告」で、それ以外は推計値。

## 2 将来のまちの構造

### — 将来のまちの構造とは —

- まちづくりを進めるに当たっては、市街地をどのように形づくっていくかなど、社会情勢などに対応して、市域全体をどのように活用し、どのようなまちの構造にしていくかという基本方針を設けておく必要があります。
- 本市は合併を重ねることにより広大な市域を有し、山地、川、海岸や平野などの自然環境が地域により異なります。したがって、市域を自然環境や日常生活圏などから成る地域としての集まりとしてとらえ、それぞれの地域ごとに地域の特性を活かした地域核を形づくっていくというまちづくりを行う必要があります。
- 本市では、市域の自然環境や地域の特性などを考慮して、大きく6つの地域ごとにまとまりのある地域づくりを進めるよう基本方針を定めます。

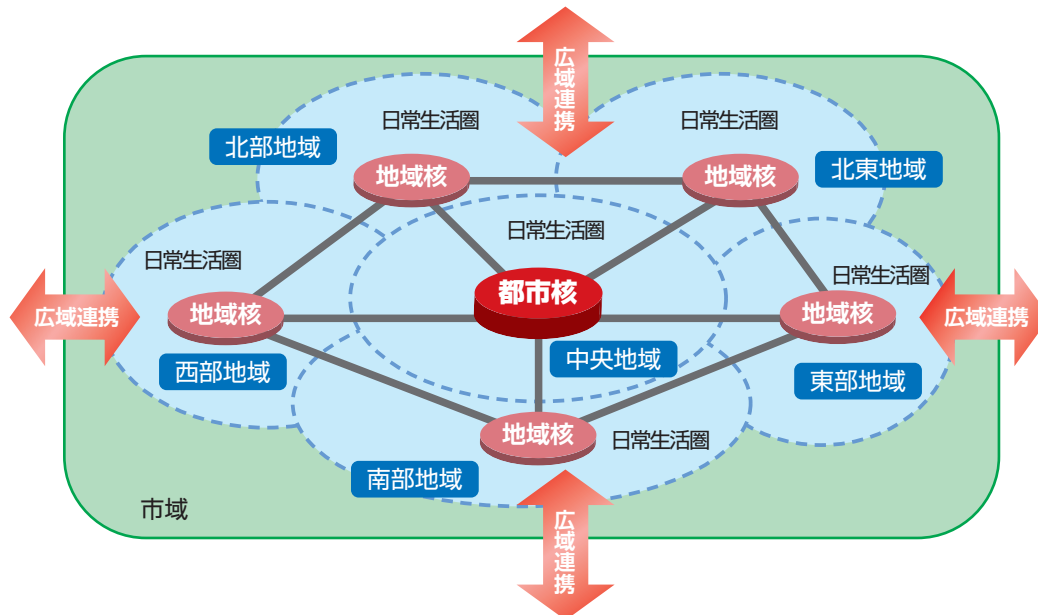
## (1) 3つの基本方針

●本市のまちづくりは、次の3つの基本方針に基づいて進めます。

### ① 福山市全体の均衡ある発展

- ・中心部(都市核)とそれを取り巻く地域(地域核)との一体的な発展をめざしたまちづくり
- ・これまでのまちづくりを活かした、まとまりのある市街地づくり
- ・日々の生活に不便さを感じない地域づくり
- ・地域間の交流と近隣都市との連携による地域力強化

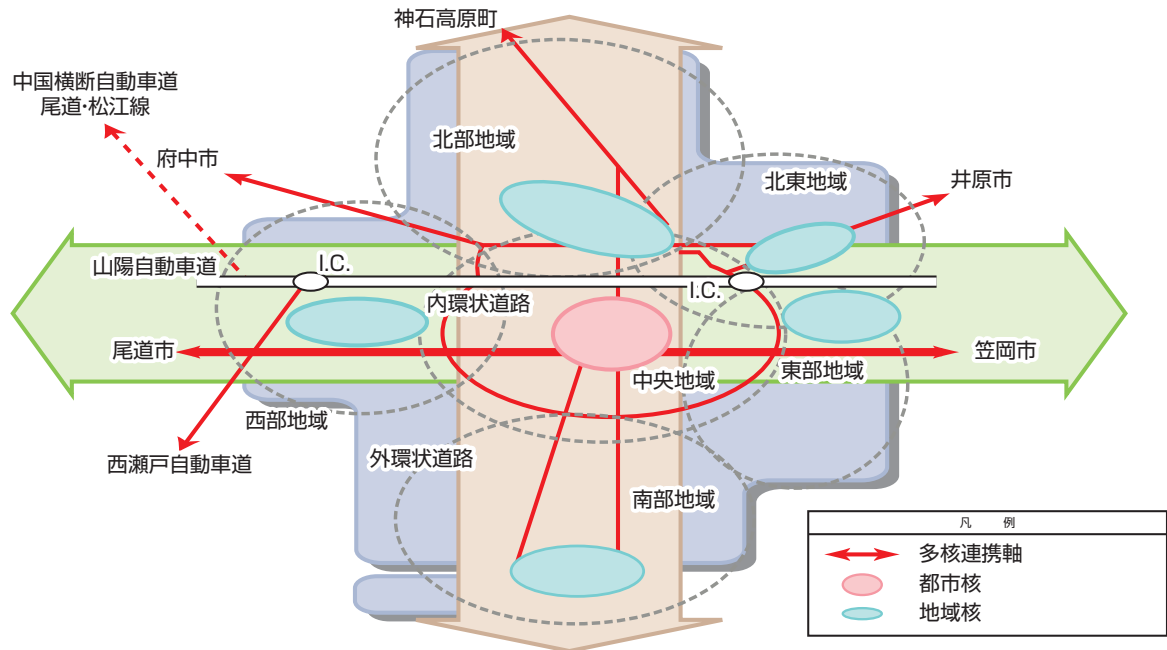
【都市核と地域核の連携のイメージ図】



## ② 中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力の向上

- ・交流人口の増加とにぎわいの創出
- ・拠点都市としての機能と魅力を備えたまちづくり
- ・中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力の向上

【将来のまちの構造イメージ図】



## ③ 安らぎと潤い空間の創出

- ・自然環境の維持・保全
- ・都市景観の保全・創出による特色あるまちづくり



## (2) 地域別のまちづくり方針

●各地域のまちづくりは、次のとおり進めます。

<p><b>中央地域</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央地域は、広域交通と市内交通が集結する位置にあり、本市の高い拠点性と求心力を担う地域で、本市における中核拠点としてのまちづくりを進めます。</li> <li>●JR福山駅周辺地域の土地の有効利用を促進し、交通機能、業務機能、商業機能、文化機能、交流機能、都市型住居などの集積を高めるとともに、都市景観にも配慮しながら、中国・四国地方の拠点都市にふさわしい風格とにぎわいのある都心づくりを進めていきます。</li> </ul>
<p><b>東部地域</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東部地域は、大規模工場立地による産業拠点や土地区画整理事業に伴って宅地整備が進んできた地域を有する地域で、中央地域における中心市街地を補完する地域として成熟していくことをめざした地域核をつくっていきます。</li> <li>●適正な住宅地の配置を誘導するとともに、地域の商業・業務・サービス施設などが充実した計画的な地域づくりを進めていきます。</li> </ul>
<p><b>西部地域</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●西部地域には、木材関連産業など伝統的な産業が集積しているほか、港湾、山陽自動車道のインターチェンジもあり、交通機能を活かして産業を集積させていくとともに港湾施設の整備を促進していきます。</li> <li>●JR松永駅を中心に地域商業、業務拠点や日常生活サービス機能を充実させるとともに港湾機能などを活かした基盤整備を進めていきます。</li> </ul>
<p><b>南部地域</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南部地域は、鞆の浦を中心とした観光資源、海洋性リゾートやスポーツ・レジャーなどレクリエーション資源や丘陵・農地が豊富な地域です。これらの資源を活用した地域振興を行っていくため、関連施設の整備や地域産業を活性化させ、人口の定着と市内外からの交流人口を増加させていきます。</li> <li>●地域の商業や日常生活サービス機能の充実をめざした地域づくりを進めるとともに、幹線道路や河川・海岸などの親水空間の整備、漁業基盤の整備などを進めていきます。</li> <li>●合併した地域では合併建設計画に基づく事業を推進しており、旧市域と一体的に発展するようなまちづくりを進めていきます。</li> </ul>
<p><b>北部地域</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北部地域は、恵まれた広大な自然環境や農地を有しており、これらの資源を維持・保全しながら、自然と調和し良好で快適な居住環境を備えた地域づくりを進めていきます。</li> <li>●地域商業、交流拠点や日常生活サービス機能が充実した地域づくりを行っていくとともに、産業関連基盤の整備を進めていきます。</li> <li>●合併した地域では合併建設計画に基づく事業を推進しており、旧市域と一体的に発展するようなまちづくりを進めていきます。</li> </ul>
<p><b>北東地域</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北東地域は、恵まれた自然環境や農地を有しているほか、神辺本陣・廉塾などの貴重な歴史・観光資源を有しています。これらの地域資源を維持・保全しながら、計画的に都市基盤の整備を進めていきます。また、旧市域と一体となった地域商業拠点や日常生活サービス機能の充実をめざして地域づくりを進めていきます。</li> <li>●JR神辺駅周辺においては、計画的な宅地整備などに取り組み、住環境や商業・業務機能などを充実させていきます。</li> <li>●北東地域では合併建設計画に基づく事業を推進し、旧市域と一体的に発展するようなまちづくりを進めていきます。</li> </ul>

### 3

## “チャレンジふくやま”躍動プラン



- “チャレンジふくやま”躍動プランは、様々な行政分野において重点的に実施していく主要な施策・事業について、「実施計画全体を実現していくための先導的な役割を持つプラン」として位置付けるものです。
- 基本構想の「まちづくりの基本目標」に基づき、次のとおり5つのプランの柱を設けています。この5つの柱の下に10のプランを設け、重点的に取り組んでいきます。  
※ 実施計画の中で具体的な事業を位置付けて取り組みます。

### 1

## だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち (安心・安全・環境)

### ① だれもが安心・安全なまちプラン・・・・・・・・・・・・・・・・

～ 人が大切にされ、市民の命や財産を守るために ～

#### 人権施策基本方針の推進

主な事業 ■■■ ・人権教育・啓発の推進

#### 防災・危機管理体制の強化

主な事業 ■■■ ・総合防災訓練の実施

#### 防犯活動の推進

主な事業 ■■■ ・地域安全推進事業

### ② 地球環境にやさしいまちプラン・・・・・・・・・・・・・・・・

～ 地球にやさしい環境を守るために ～

#### 地球・地域環境の保全と循環型社会の構築

主な事業 ■■■ ・温暖化対策事業(スクラムふくやま☆エコトライ)

### ③ 快適に暮らせるまちプラン・・・・・・・・・・・・・・・・

～ 快適な水環境を支え浸水被害から守るために ～

#### 安全・快適な水環境の確保

主な事業 ■■■ ・上下水道施設整備の推進 ・河川・水路整備の推進(雨水対策の充実)

## 2

### 子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち (保健・福祉・医療)

#### 4 まちぐるみ子育て応援プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ～ 安心して子どもを生み、育てられる環境をつくるために～

##### 子育て支援環境の整備

**主な事業** ■■■ ・保育所整備事業 ・病児・病後児保育事業 ・保育所における子育て支援事業の充実 ・ひとり親家庭の自立支援の推進 ・放課後児童クラブの充実

##### 児童虐待防止対策の充実

**主な事業** ■■■ ・「虐待防止ネットワーク」活動の充実  
・育児支援家庭訪問事業

#### 5 みんなで健康いきいきプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ～ みんなが住み慣れた地域で安心して健康に暮らせるために～

##### 高齢者保健福祉計画の推進

**主な事業** ■■■ ・地域包括支援センター<sup>\*</sup>の運営  
・介護予防事業の充実 ・生きがい対策・社会参加の推進

##### 障がい者保健福祉総合計画の推進

**主な事業** ■■■ ・障がい福祉サービスの充実 ・発達に課題のある子どもへの支援の充実

##### 地域医療体制の充実

**主な事業** ■■■ ・市民病院の機能強化 ・救命救急センター<sup>\*</sup>の運営  
・(仮称)福山・府中地域救急支援診療所整備事業

##### 健康増進計画の推進

**主な事業** ■■■ ・市民の健康づくりの推進

##### 生活保護世帯の自立支援

**主な事業** ■■■ ・自立支援プログラムの推進

<sup>\*</sup>地域包括支援センター：高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう各種相談受付、介護予防ケアプラン作成、権利擁護、介護支援専門員の支援等を行う地域の中核機関のこと。

<sup>\*</sup>救命救急センター：極めて重症の救急疾患や外傷に対して、高度な集中的治療を24時間体制で提供できる医療施設のこと。

### 3 多様に学び,文化をはぐくむまち (教育・文化)

#### 6 文化をはぐくみ次世代を担う人づくりプラン・・・・・・・・・・・・・・・・

～ 福山の将来を担う人材育成のために ～

##### 高等教育機関の充実

主な事業 ・福山市立大学の機能強化

##### 学校教育ビジョンの推進

主な事業 ・キャリア教育\*推進事業 ・少人数指導推進支援事業 ・生徒指導  
教育相談の充実 ・地域学習活動支援事業(土曜チャレンジ教室\*)

##### 文化・スポーツの振興

主な事業 ・文化活動の促進 ・スポーツ選手の育成・強化

### 4 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち (活力・交流)

#### 7 にぎわい・交流創出プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

～ にぎわいのある中心市街地と交流拠点機能の強化をめざして ～

##### 個性ある備後都市圏の玄関づくり

主な事業 ・福山駅周辺整備事業

##### 交通体系の整備と物流機能の強化

主な事業 ・国際バルク戦略港湾政策の推進 ・尾道糸崎港機織地区港湾整備事業  
・幹線道路網整備事業 ・鞆地区道路港湾整備事業  
・公共交通の維持・確保

#### 8 産業の力みなぎるまちプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

～ 活力あふれる産業振興をめざして ～

##### 企業立地環境の充実

主な事業 ・企業立地促進制度

\*キャリア教育:児童生徒一人ひとりの勤労観,職業観を育てる教育のこと。

\*土曜チャレンジ教室:地域の退職教職員などがボランティア講師となり,児童生徒に個別指導を行うもの。児童生徒が苦手教科を克服し,学力向上につなげる福山市独自の事業。市内の小学5年生～中学1年生を対象に2011年(平成23年)から開始した。

### 産業振興ビジョンの推進

- 主な事業**
- ・中心市街地活性化 ・ベンチャー・サポート・システム\*
  - ・環境関連産業の創出 ・産業基盤整備事業
  - ・地場産業の創出活動支援 ・産学官連携の推進

### 農業振興ビジョンの推進

- 主な事業**
- ・農業の担い手の確保と育成 ・地産地消推進事業

### 就業支援の充実

- 主な事業**
- ・若年者就職支援事業 ・再就職のための支援

## 9 「福山らしさ」あふれるまちプラン・・・・・・・・・・・・・・・・

～ だれもが住んでみたいまち・訪れてみたいと思うまちをめざして～

### 都市ブランドの創出・発信

- 主な事業**
- ・鞆の町並み保存 ・ものづくり技術の継承 ・ふくやまブランド  
農水産物推進事業 ・「福山らしさ」発信事業

### 観光振興ビジョンの推進

- 主な事業**
- ・観光情報発信事業 ・観光基盤整備事業 ・魅力ある景観づくり

### ばらのアクションプランの推進

- 主な事業**
- ・ばらのまちづくり推進事業

## 5 市民とともにつくる自立したまち (協働・行革)

## 10 みんなが主役のまちプラン・・・・・・・・・・・・・・・・

～ 市民とともにつくるまちづくりのために～

### コミュニティ活動の拠点となる施設の整備

- 主な事業**
- ・(仮称)神辺地域交流センター整備事業 ・鞆地区公共施設整備事業

### 協働のまちづくりの推進

- 主な事業**
- ・協働のシステムづくり

### 広域連携の推進

- 主な事業**
- ・広域交流・連携事業

\*ベンチャー・サポート・システム:ベンチャー企業に対して技術開発から商品化, 販路開拓, 資金提供, 人材育成の各段階において, 効果的な支援を行うための産学官連携による支援体制のこと。

## 4

### 市制施行 100 周年に向けて取り組む主要事業



- これからの社会資本の整備に当たっては、既存の施設の有効活用を進めながら、より一層の事業の選択と、財源の重点化による基盤整備を行うことが必要です。また、少子高齢化時代に対応した子育て支援、高齢者福祉の充実、教育など次代を担う人づくり、福山ブランドの全国への発信などソフト施策を重視した取組がこれまで以上に求められます。
- 都市基盤整備などハード施策においては、中国・四国地方の拠点性と求心力を備えた活力と魅力あるまちづくりを進めていきます。
- ここでは、市制施行100周年に向けて、後期基本計画で取り組む事業のうち、おおむね事業費3億円以上の事業で、本市の骨格となる都市基盤の整備事業に係る主要なものを、次のとおり掲げています。
- 事業の具体化に当たっては、実施計画においてソフト事業などとのバランスも考慮しながら財源調整を行い、また、必要に応じて見直しも行った上で決定していきます。

## 1

### だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち(安心・安全・環境)

消防施設等整備事業  
市営住宅の整備事業(深津市営住宅ほか)  
道路改良事業(幕山台大門線ほか)  
橋りょう長寿命化事業  
自転車走行空間整備事業  
老朽水道管の更新整備事業  
合流式下水道改善事業  
下水道施設長寿命化事業  
(仮称)汚泥再生処理センター整備事業  
川南土地区画整理事業

## 2

### 子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち(保健・福祉・医療)

保育所整備事業  
(仮称)福山・府中地域救急支援診療所整備事業  
市民病院施設整備事業

### 3 多様に学び,文化をはぐくむまち(教育・文化)

小・中学校校舎耐震補強改修事業  
小・中学校屋内運動場耐震補強改修事業  
社会体育施設整備事業  
文化財保存整備事業  
新市給食センター整備事業

### 4 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち(活力・交流)

幹線道路網整備事業  
都市計画道路事業(鷹取本庄線ほか)  
鞆地区道路港湾整備事業  
福山港港湾整備事業  
尾道糸崎港機織地区港湾整備事業  
福山駅周辺整備事業  
漁業集落環境整備事業

### 5 市民とともにつくる自立したまち(協働・行革)

鞆地区公共施設整備事業  
(仮称)神辺地域交流センター整備事業

# 施策体系図

